

発議案第7号

「子供一人一人を大切にし、感染症にも強い少人数学級」を速やかに実現することを求める意見書について

標記について、会議規則第13条の規定により別紙のとおり提出いたします。

令和2年12月22日

提出者	盛岡市議会議員	工藤健一
賛成者	盛岡市議会議員	鈴木努
〃	〃	小笠原秀夫
〃	〃	大谷陽介
〃	〃	兼平孝信
〃	〃	三田村亜美子
〃	〃	竹花せい子
〃	〃	天沼久純
〃	〃	村田芳三
〃	〃	鈴木俊祐

盛岡市議会議長 遠藤政幸様

# 「子供一人一人を大切にし、感染症にも強い少人数学級」を

## 速やかに実現することを求める意見書

学校は一人一人の子供とじっくり向き合い、悩みに耳を傾け、個別の指導をすることが大切であり、現場からは40人学級ではなく少人数学級実現の要望が強く出されています。約30年前に岩手県内でも40人学級が導入されましたが、その直後から30人以下の少人数学級の実現を求める運動が続けられ、長年の努力により小中学校では近年35人以下の学級となっています。しかし、国の基準は40人学級であり、教員配置など多くの困難を抱えているため、国主導で少人数学級を実現することが関係者から強く期待されています。

今、新型コロナウイルス感染防止のため、学校教育の現場でも身体的距離の確保が課題になっていますが、40人学級の教室では子供たちの身体的距離が取れず、密集状態です。少人数学級の導入は、密集状態の解消が期待され、感染症対策にもつながります。

また、ICT教育環境の整備と併せて少人数学級の早期実現を求める声が高まっています。

7月3日には、全国知事会、全国市長会及び全国町村会は連名で、政府に「少人数編制を可能とする教員の確保」を要望しています。また、7月17日に閣議決定された「骨太方針2020」でも、「少人数によるきめ細やかな指導体制の計画的整備」の検討を提起しています。さらに9月24日には、自由民主党の教育再生実行本部も30人学級の推進を決議しています。

来年度予算編成に当たって、少人数学級に踏み出す予算措置を実現することが、教育関係者の強い要望になっています。

よって、国においては、こうした状況を踏まえ、下記事項を実現するよう強く求めます。

### 記

- 1 「安心・安全で、ゆきとどいた教育実現につながる小学校、中学校及び高等学校の少人数学級」を速やかに実現するため、必要な措置を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

令和2年12月22日

盛岡市議会